



保育北九州

平成25年1月1日
 発行 北九州市保育所連盟
 〒805-0019 北九州市八幡東区
 中央2丁目1-1
 (レインボープラザ5F)
 電話 (093)661-2153番
 発行人 平 沢 茂
 編集人 日 野 真人

2013 **170**



〈写真提供 小倉北 支部〉

表紙	1
視点・年頭所感	2
視点・役員あいさつ	3
記念誌作成にあたって	4~5
二人三脚	6~7
第50回記念北九州市保育研修大会	8~9
研修報告	10
各支部名物	11
雑感・編集後記	12

**力を合わせて
 ぺったんぺったん
 おいしいおもちになあれ!**

「仮設住宅で越年する被災者のメッセージに思う」

視点

被災地に「暖かい心を」という活動をしているボタンの会に所属する保護者から北九州の味に添える「北九州の元氣と暖かい心」をメッセージにという依頼を受けて、園児たちが「つながる」支え合うをテーマに暖かさといった絵文字のカードを作成し、送った。

そのお返事を頂いた日、また東北地方で地震があり、津波警報が出されたこととニュースが報じた。この寒空に胸を痛めたが、まだ仮設住宅にお住まいの六十代女性の手紙の一節を紹介しよう。

「沢山の支援を有難う。こちらでは復興までに十年も二十年もかかると平気で言われ、私などは復興後の町は見られないとあきらめの日々です。

来年一年生になる孫が、大人になるまでにはやさしい町が出来てほしいなと思つています。やさしい町はやさしい心が沢山集まってやさしい町が出来ると思うので保育園のみなさんのようにやさしい子どもたちが沢山育つてほしい。Nちゃんの絵のように「暖かいお陽様、青い空、緑と花、虫たち」そして人と人が手をつないで笑い合えますように。心から有難う。」とあった。

年頭所感

北九州市保育所連盟

会長 平 沢 茂



明けまして

おめでとうございます。

皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

新年を迎えましたが、私たちの国は、一昨年三月に東日本を襲った大

震災原発事故の復興の見通しも立たず、加えて年末の衆議院選挙と、経済的にも政治的にも混沌とした状況の中での年明けとなりました。

そのような中であつて、本年二月には北九州市政五十周年の時を迎え、四月には我が北九州市保育所(園)連盟も創立満五十周年の記念



すべき時を迎えます。

一口で五十年とは言え、この間どれだけ多くの先達の方々のご苦勞をもって連盟の歴史が綴られて来たことでしょうか。「組織は力なり」「保育は北九州から」の合言葉をもって、今日の強力な組織となり継続されておりますことは、ひとえに先達の方々のご努力の賜物と、喜びと感謝の念に絶えません。

一方、ここ数年の間、もめにもめた「子ども・子育て新システム」の法案が、「子ども・子育て関連三法」として法制化されました。これもまた検討課題の山積みした法律となり、それを受けて成長しなければならぬ子どもたちにとっても保育の働きを担う私たちにとっても不安と

危惧をもって対応しなければならぬことでしょうか。

昨年末、この法律によって示されたことの中に、国において設置される「子ども・子育て会議」があり、この会議は、今後それぞれの地方自治体においても設置が努力義務として求められ、それぞれの会議のメンバーに誰を参画させるかは今後の大きな課題となることでしょうか。

また、「総合子ども園」の法案が廃案になったことにより、これまでの保育園・幼稚園は現状維持が認められましたが、他方では「認定子ども園」の設置が広く求められ、これによって今後の保育の在り方に差別化や格差が生じないように注視し、声を出して行かなければなりません。

明日を担う「今」の子どもたちのために、「組織は力なり・保育は北九州から」の合言葉をお互いに再確認しながら、この年の北九州市保育所(園)連盟の新しい51ページ目の歴史を綴り続けてまいりましょう。皆様のご健勝とご健闘を祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

折しも選挙に向けた各政党の公約は、原発が主たるテーマの一つだが経済とも相俟って再稼動とか、三十年代見直し等とあるが原発のゴミ処理が不可能とすれば直ちにフェードアウトが人間生活にとつて正解ではなからうか。

寒空に故郷に戻れず、仮設住宅で二度目の3・11を迎える方々のことを思うと胸が痛む。一向に進まない復興、不景気、先の見えない閉塞感へのいら立ちから何かやってくれそうな勇ましく、元氣そうな政党に雪崩現象を起した過去の失敗は二度と繰返したくない。

「やさしい心が集ってやさしい町が出来るのだ」という被災地の方が願うよう私たち一票を行使できる者が政治家に願う「清潔・誠実・情熱・公正・実行力」の五つを備えた一人ひとりの政治家が集って政党が出来、人々の求めるやさしい社会が出来るのではないか。育児の主体は家族か、社会かという二者択一でなく、専業主婦率2%と言われる北欧の国で「子どもの人生が母親の健康、安全で幸福に決定的に依存している。」とし、子どもの幸せが夕食を家族と共に、を可能にする働き方を政策として考えて欲しい、それが国民のコンセンサスになるマスコミのリードを期待するのは妄想に過ぎないのだろうか。

藤岡 佐規子

門司支部

支部長

西 敏昭

保育士会長

廣吉 八重美

小倉北支部

支部長

酒井 光義

保育士会長

福田 みつよ

若松支部

支部長

伊高 繁男

保育士会長

萩野 いくの

会長

平沢 茂

副会長

山本 文雄

北野 久美

伊高 繁男

保育士会副会長

中村 尋子

黒田 玲子

猿渡 佐知子

顧問

西村 賢了

西村 良樹

藤岡 佐規子

深川 信教

北野 一恵

本年も宜しく
お願いいたします

小倉南支部

支部長

橘原 淳信

保育士会長

山崎 啓子

八幡西支部

支部長

山本 文雄

保育士会長

西澤 満子

八幡東支部

支部長

杉園 弘充

保育士会長

岡本 エミ子



「記念誌作成にあたって」

編集部部长

中村 尋子

◆記念誌編纂について

昨年一月二十六日の企画部会で編集部が座談会をすることと、既に三十周年記念誌は発刊されていますが、五十年のすべてを網羅して編纂し発刊は二月とすることが決まりました。それを受けて、保育北九州の編集委員に適時協力をお願いすることなどの大枠が、企画委員会で検討され暫時準備を進めることになりました。「視点」は別冊で印刷し会員に配布する。記念誌はA4サイズとしページ数は二五〇頁程度とするなどとも決議されました。

◆記念誌骨子案

準備を進め始めた五月、保育課から記念誌骨子案が示されました。そこで当初の計画を一部変更するなど戸惑いもありましたが、保育課と協議して北九州市保育のあゆみ五十年記念誌の骨子案がまとまりました。

- I部 発刊にあたって
- II部 北九州市における先進的保育事例（子育て日本一）
- III部 北九州市の保育50年のあゆみ
- IV部 保育所連盟のあゆみ
- V部 50周年によせて（役員）
- VI部 資料などのVI部構成で編集しています。

◆写真撮影

各施設紹介は写真で。写真撮影はプロに依頼しましたが、各園の協力態勢が良く梅雨期の1週間を除いてほぼ予定通り撮影できました。写真スタジオ・クリエイトの鼓常良様には大変お世話になりました。鼓さんも保育園一五八施設撮影するのにこんなにスムーズに撮影できるとは思ってもいなかったと感心しておられました。各園の順路については鼓さんが立案されたものを、保育所連盟事務局長清田千年様をはじめ事務局の方々パソコンで入力し各支部に送信していただきました。こうした多くの方々による陰のお力添えを頂きました。紙面を借りてお礼申し上げます。

◆座談会

昨年七月三日、会長を経験された先生方にお集まり頂き座談会を開催

しました。不詳私に拙い司会を務めさせていただきましたが、さすが会長経験者だけあって話が途切れることなく進み、司会者として安堵いたしました。当日は保育北九州の編集委員の方々にもご出席願ひ録音編集作業をして頂きました。



◆視点の編集

藤岡佐規子先生はお父様（晴光先生）の後を引き継がれて60有余年。北九州市保育所連盟が一本化してから保育北九州誌上にずっと執筆してこられました。視点と題し

て寄稿していただくようになった第38号（昭和57年）からのものを今回編集しました。第38号から書き続け

て来られましたが、第69号が欠番になってきているのは西村法昭先生が亡くなられたとき視点としてではなく別のタイトルで執筆しておられるので、一度たりとも寄稿されなかったことはありませんでした。長い間は体調のお悪いときもあったでしょう。そんなときは多分無理をされての寄稿だったと思われれます。本当に頭の下がる思いです。そのときどきの社会・経済問題や保育制度にかかわる課題・高齢化社会の問題などつぶさに収集され、社会の動きや情勢をキャッチしつつも新しい情報を提供くださいますが、視点はいつも子どもたちにおかれ、そのゆるぎない精神は誰もまねのできないものでした。

なお本書をまとめるにあたり、タイトルや改行位置等を一部修正させ

て頂きましたことをお断りし、また校正等につきましてもお詫びいたします。



◆おわりに

私は編集部会長が務まるだろうかかと案じていましたが、副部会長の黒田玲子先生をはじめ編集委員の先生方が、手となり足となって私を支えてくださいました。そのお蔭で来月北九州市が50周年を迎える日にはこの記念誌を発刊することができま

す。お目通し頂ければ幸いです。ご協力くださった皆様にあらためて感謝いたします。

われましたが、本当に卓越した企画力・組織力はすばらしいものをお持ちです。その裏には北野一恵先生の陰のお力も大きかったと思います。保育士会で研究研修を始めたとき藤岡先生は既に先を見通しておられました。私はまだ駆け出しのころで井上初恵先生と二人三脚で統計作業に取り組んだことが、今回の編集作業を通して懐かしく思い出されました。

故西村法昭先生と藤岡先生のコンビで北九州の保育を築いて来られたことは申すまでもなく、同時に保育課と保育所連盟が車の両輪となって現在北九州が保育日本一をめざす礎を築かれたことを私たちは忘れてはならないと思います。

今後は先達が積み上げてこられた様々な取り組みを土台として次の新しい第一歩を踏み出し、北九州市並びに北九州市保育所連盟が益々発展することを祈念いたします。

およろこび

☆全国私立保育園連盟会長表彰
本城西保育園

園長 橋原智司
こじか保育園

園長 山崎敏博

☆厚生労働大臣表彰

城野保育園

園長 天本タツ子

☆全国保育協議会会長表彰

三ツ葉保育園

主任保育士 藤井通子

穴生保育所

所長 谷矢勅子

☆西村法昭顕彰会表彰

北方保育所

所長 高原美由喜

新栄はやとみ保育園

園長 吉岡優子



好評連載の「二人三脚」第五回目は、小倉北区支部長の酒井光義先生、同保育士会会長の福田みつよ先生に、平成二十四年十二月に保育北九州編集委員がお話を伺ったものを編集して掲載いたしました。

聞き手・「保育北九州」編集委員 (以下・編集)
話し手・神岳保育園 (以下・酒井) 園長 酒井 光義
話し手・キンダーポート保育園 主任 福田みつよ (以下・福田)

(編集) よろしくお願ひします。初めに、保育の仕事に就いたきっかけを教えてください。
(酒井) 生まれも育ちも保育園。設立母体がお寺であることから、必然的に後継者で、大学卒業後そのまま疑いもなくお



酒井 光義 支部長



福田 みつよ 保育士会長

ファイルNo.5
小倉北支部

寺の道と保育の道へまっしぐらとなりました。およそ十年刻みで神岳保育園用務員、神岳第二保育園(夜間)小倉北ふれあい保育所の前身)園長、そして神岳保育園園長と引き続きさせていただいています。

(福田) 実家が保育園をする事になり短大二年(家政科)の時に試験を受け、一から保育の勉強をし、今に至っています。
(編集) では、この道に進んで良かったと思うことを教えてください。

(酒井) お寺と保育園のことしか知らないのですが、それこそいつも子ども達の中に立ちながら、子どもたちから教えられる場がない姿や言葉そのままの素

直さの中にいられるのはこの道でしか味わえない気がします。子どもの気分がいられることでしょうか。

(福田) たくさんの子ども達に出会い元気をもらえることです。そしてたくさんの方との出会いがあることです。初めて受け持った子どもの保護者と先日保育園の散歩中にお会いすることがあったのですが、お互いすぐに名前がでたんです！三十年以上前のことなのに嬉しくなりました。また教え子の子どももたくさん保育園に通っています。ついお祖母ちゃんに「お母さん」と言って笑われてしまいます。
(編集) お二人が子ども達に囲まれて笑っている姿が目につかびます。では、休日ほどのようにお過ごしですか？良かったら、ストレスの発散法や趣味等についてもお聞かせ下さい。

(酒井) お寺と保育園を掛け持っているからでしょうか、休日がなかなか取れません。ドライブが好きで家族での旅行は楽しみですが、最近では時間が合わず一緒に出かけ遠乗りができないのが残念です。家の中では、のんびりとテレビを見て過ごします。お酒も好きですし、音楽も好きでギターもかじっています。最近はおートハープという楽器には



まっぴら演奏しています。夜な夜なの練習に家族から呆れられているかもしれませんが、機会があればお聞かせしましうか？

(編集) オートハープという楽器すら知らないのです、今度ぜひお聞きしたいです。

(福田) 私は、孫と戯れ遊んだり我が家の犬とゆったり過ごしたりしています。ゆったり過ごすといっても、我が家には四匹のフレンチブルドックがいるのでいつもブヒ・ブヒと言っています。



少し話は、それるのですが……。
この四匹は親子で、帝王切開で産まれました。お産時、主人と待合室で産まれるのを待っていたことが昨日のことのようです。「おめでとうございませう！男の子と女の子ですよ！」と言われ喜んだのですが、その後院長先生から「男の子が口蓋裂です。お母さんのおっぱいを飲むと気管に異物が入る状態になり窒息死する恐れがあります。育てるのであれば、チューブを使いミルクを1時間おきに飲ませな

（編集） いといけません。」とも言われたのです。「頑張つて育てます。」と言つてから今年の五月で三歳！病院の先生に応援していただきながら今では一番元気なヤンチャ犬で困るくらいです。その時、飼い主の心構えと命の尊さを考えさせられたことを思い出します。

（酒井） 四匹の犬を我が子のように育てていますね。今は、我が子以上かもしれないですね。では、私はこう見えて実は……等、意外な一面があつたらお聞かせ下さい。

（酒井） のんびりと落ち着いておとなしく見えるとは思うのですが、意外と興奮し気が短いところもありますよ。ドライブだとスピード狂とまではいきませんが、結構飛ばすほうです。学生時代にスポーツはやっていたのですが、万能ではありません。特に球技は得意ではありませんでした。それが影響してかゴルフも少しかじりましたが上達しないまま休止状態です。

（編集） 酒井先生は、謙遜しておっしゃっていますが、剣道は有段者でしたよね？

（酒井） 学生時代の頃ですが、確かに段は持っています。それが縁で勤務当初から年長さんに年間を通して剣道の指導をしています。

（福田） ママさんバレーを二十六年

続けています。同世代のメンバーが体調を崩して退部し寂しくなったり、仕事で遅かったりで、最近は練習になかなか行けないのが現状です。練習は週一、二日で夜七時から二時間程度しますので、よく人に「疲れませんか？」「よくしますね。」などと言われますが、学生の時から身体を動かすことが大好きなので、大きな声をだし汗だくになり練習すると気分もスッキリ爽快感を感じることができのです。ぜひ皆さんも身体を動かしてみてはいかがですか？

（編集） 仕事から帰つてからの運動は体力的に厳しいかもしれませんが、では、座右の銘がありません。でしたらお聞かせ下さい。

（酒井） 特段これというものではないかもしれませんが、若いころ「頂き物とところうべし」と聞かせていただいた言葉が心に残っていて、すべてのものを顧みる時にこの姿勢で返していくと見えてくるものがあります。なかなか納得できない時もあります……。

（福田） 「努力は決して人を裏切らない」「為せばなる為さねばならぬ何事も」
仕事は凡人の私にとって、この言葉は励みになります。

（編集） 最後に新年号らしくお尋ねします。正月は毎年どのような過ごし方をしますか？

（酒井） お寺の除夜の鐘撞きの法要が大晦日から元旦と深夜にかけてあります。ご門徒の方はもちろん在園児や卒園児も来てくれるので会うのが楽しみです。ですが、おせち接待に大忙しで早朝まで続きます。したがって片付けののち、気が付くと元旦は寝正月です。その夜にあらためて家族でのご挨拶をします。あとの二日と三日は年始回りや年賀はがきづくりです。あつという間に終わってしまい、本当の正月気分は一月中旬ごろでしょうか。

（福田） 除夜の鐘を聞きながら氏神様にお参りに行きます。一日は忙しく、仏さまに手づくりのおせち料理と雑煮、そして神棚にも雑煮をお供えするのが結婚してから三十年間、元旦の朝の恒例行事となつています。同居していた亡き主人の母に家訓を叩き込まれました。だから毎年早起きをして準備をしています。その後は、のんびりTV等を見て家族で過ごします。

（編集） ありがとうございます。来年も小倉北支部を支えて下さい。

第50回記念 北九州市保育研修大会

この研修大会は去る十一月二・三日の両日、アルモニーサンク・ソレイユホールに約二千名の会員が参加して開催されました。以下、その概要をお知らせします。

第一日目 施設長特別研修会

行政説明

北九州市の保育行政について
子ども家庭局子ども家庭部保育課
課長 武田 信一

保育課の武田課長が、新制度移行を控えた保育行政の展望についてお話しされた。制度が変わっても市と保育所の関係は、車の両輪として共に手を携えてやっていきたいとのことであった。また喩えとして、フィルムカメラはデジタルカメラへと移行したが、カメラそのものはずっと使われているとも話されていた。制度が変わっても、保育の重要性はまったく変わらないということである。

講演

「保育園とは」何か
—心の準備のあるところに幸運が舞い込む—
社会福祉法人 土の根会理事 長

新保庄 三氏

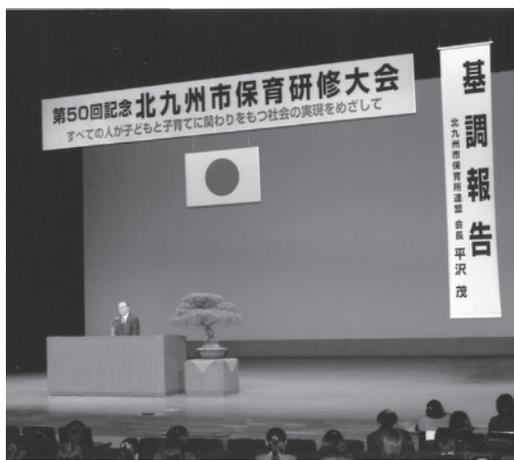
全生園内に、初めて認可保育園ができた経緯と新保庄三先生が歩んでこられた歴史が語られました。保育園の役割は、親の権利・子どもの発達の保障に加え、親が親になっていく場所である役割と家族の中でおばあちゃん存在意義の重要性の説明がなされました。世代間交流保育システムと地域にとつて保育園は家庭より安全であるべきと先生の考えが示され、まともに厚生労働省の重大事故の問題に対処する危機管理対策と失敗学で検証する姿勢および保育所の人間関係の重要性が話されました。

第二日目 本大会

基調報告

保育の道の行方 —その2—
「子ども・子育て関連三法案」は成立しても
北九州市保育所連盟
会長 平沢 茂

子ども子育て新システム法案は、修正ののち可決された。「総合こども園」は廃案になったが、代わりに「幼保連携型認定こども園」として、国は産業化しようとしている。子どもに視点はあたっていない。おそらく、様々な格差や問題を生みだすだろう。一人ひとりの子どもを皆で育てていこう、という思いに反する法律で良いのか？



最後に平沢先生は「北九州市保育所連盟五十周年を記念して藤岡先生が書いた本『視点』は保育に携わる人達へのバイブルです。感謝しながら読み、柱として糧として下さい。」と、締めくくられた。

夢を語る

若き保育士の主張

「二十年後の保育」

〔門司支部〕

道 還る場所へ

白野江保育園 蜂谷 将邦

「保育王に俺はなる」と決め、保育の道に進んだ。男性保育士としてのやりがいと誇りを感じつつも、将来への不安に悩んだ。しかし、A君との関わりをきっかけに親子、地域の人が安心できる温かい保育園を作りたいと目標を持つようになった。と、熱く力強く語られました。

〔小倉北支部〕

二〇三三年の街角で

〇Lからの挑戦へ

光沢寺第二保育園 矢越 麻衣子

〇Lから憧れの保育士に転職した私。元気でやんちゃな男児に出会い、愛情を注いだ日々。二十年後、その

子はきっと優しさに溢れる家庭を築いているだろう。私は、益々保育の仕事に励んでいると思う。

〔小倉南支部〕

未来への絆

ゆたか保育園 久保 直子

二十年後、今いる子どもたちが大人になったときの社会をイメージしながら、日々の保育に取り組むことが、未来に繋がることだと思えます。人との絆を大切にし思いやりの気持ちを持つて人の多い未来を作りたいです。

〔若松支部〕

ときめき続けよう

子どもと一緒に！

松美保育園 宮前あゆみ

二十年後は、自身の子育てや保護者の立場を経験することで、今よりもっと寄り添った支援ができるようになり、多くの保護者から頼りにされるベテラン保育士になりたい、と瞳を輝かせて夢を語られた。

〔八幡東支部〕

保育園の大工さんにはなりたくない

ふたば保育園 山本光男

中学二年生の頃、保育園での職場体験から、保育士を志した。憧れの保育園に就職して六ヶ月、様々な葛藤があったがこの発表をきっかけに

新しい意識を持った保育士として出発点に立てた。園の便利屋としてだけでなく、性別を超えて力量のある一人の保育士とされるよう努力していきたい。

〔八幡西支部〕

つなぐ大好きな自然

聖愛保育園 宮地 菜穂美

子ども達自身の小さな気付きを育み、心ゆくまで遊ぶという経験を通して、自然を大切にする心を温かく見守り、この素晴らしい自然を未来へとつなげていきたいと思う。

〔戸畑支部〕

二十年後の輝く私を目指して

沢見あやめのもり保育所 堀奈々子

子どもや保護者・先輩方との出会いに感謝し、その中での学びを大切にして、知識や技術を積み上げ自分自身を高め、人として保育士として輝きたい。と語られていました。

オープニングステージ

「絆混声合唱団」ステージ
「MINEHAHA」ステージ

ミネハハの名は、ネイティブアメリカンに由来し、ミネは水、ハハは微笑みを意味するそうです。鮮やか

な衣装で、CM曲や「ありがとう」等のオリジナル曲を澄みきった声で熱唱くださいました。

また、愛の園保育園の田中秀一先生の指揮のもと、保育士五十名が合唱を披露して下さいました。



記念講演

「保育」という言葉

死語にしないために

—いま、心を育てる保育が大切—

中京大学心理学部
教授 鯨岡 峻氏

国家予算との兼ね合いで強行採決された子ども・子育て新システム

により「保育」という言葉が死語になりかねないと危惧している。保育とは、養護と教育との働きから成る育てる営みそのものである。養護の中で第一義にすべきは、心の育ちであり、子どものあるがままを受け止め、子どもの心に届ける事が大切。そして、大人が誘い伝える教育の働きで成長を手助けしていくものである。昨今、力に偏りがちな発達の見方を乗り越え、心の育ちに目を向けるには、客観的な事実ではなく、自分の体験したことを描くエピソード記述が重要になってくる。子どもの心につながるエピソードには、育てるエッセンスが詰まっている。子どもに寄り添い、心を育て、更に私達の保育の質を高めるためにも、是非実践してほしいものである。



研修報告

第50回記念 北九州市保育研修大会

十一月三日、北九州市保育研修大会が開催されました。五十周年を記念して「二十年後の保育」というテーマで若い保育士が熱く「夢」を語る姿に、若かりし日の自分を思い出しました。希望を胸に保育の道に進み、現場から離れた時期もありましたが、子どもたちと一緒に過ごせる今を幸せに感じながら、若い先生方の言葉に気持ちを新たにしました。

鯨岡峻先生による記念講演では、保育の基本を改めて考えさせられました。子どもへの心を向け、それを感ずるという事は、保育者が子どもに寄り添ってこそ心の動きを捉えることができる、と言われた事が深く心に響きました。自分の保育を振り返り、一層の質の向上を目指し、子どもたちの豊かな育ちを守ることが、私たち保育士に課せられた使命だと強く感じました。

今回学んだことを今後の保育に生かしていきたいと思えます。
五十周年を記念しての「混聲合唱団」MINNEHAHAのステ

ジなど実りの多い研修大会でした。

新栄はやとも保育園
佐々木 悦子

第31回九州私立保育園 研究大会に参加して



十一月八、九日の二日間、熊本市で開催された九州私立保育園研究大会に参加させて頂きました。1日目の、行政説明では「幼保連携型認定子ども園」「消費税引き上げに関する法律」「社会保障制度改革推進法案」「子ども子育て関連三法案」が可決したこと、それらの内容についての説明がありました。消費税の引き上げによる財源が、子育て支援事業に充てられ、子どもたちや保育士、教員等の処遇改善につながるこのこ

とで多少の期待をもちました。その後の帝京大学教授 村山裕一氏「これからの保育・子育て施策のあり方を考える」という講演では、日本の保育制度、政策について考えさせられる事が多くありました。午後は、第七分科会に参加し食育の取り組みについて研鑽を深め、2日目はカン・サンジュン氏の記念講演を聞く事ができました。保育界が大きく動いているこの時期に大変意義深い研修に参加させて頂きました。ありがとうございました。

春の町保育園
西山 かおり

第56回全国保育研究大会 に参加して

十一月十四日から十六日まで沖縄県で行われた大会に参加させて頂きました。

初日は式典に続き「子ども・子育て関連3法について」の行政説明と、「保育をめぐる動向と全保協の取り組み」と題した基調報告がありました。システムが変わろうとしていますが、保護者の方が今まで通り安心して子どもを預けてもらえるよう勉強していきたいと思えます。

二日目は第二分科会の「配慮を必要とする子どもの保育の充実」に参加しました。三園の先生方がそれぞ

れ、日々の保育の中で園児全体に、又は集団生活に馴染めない子どもに對した実践を報告してくださいました。助言者の吉永先生の明確な説明を受けながら、自分の日々の保育を振り返り、今後の課題を見つけることが出来ました。子どもたちを見守りながら、しっかりと受け入れていきたいと思えます。

最終日は「沖縄の福祉の歩み」を詳しく聞くことが出来、沖縄の人々が戦後歩んだ苦しみを知り改めて歴史の悲しさも学びました。多くのことを学ぶことが出来た事を感謝します。

古前保育所

森川 光子



各支部名物
八幡西支部

最近10年の八幡西支部職員研修会内容

平成15年度	落語鑑賞
平成16年度	音楽鑑賞「ハーブ&フルートの調べ」
平成17年度	講演会「未来を担う保育士をめざして」
平成18年度	講演会「共に学ぶコミュニケーション」
平成19年度	音楽鑑賞「バンドゥーラと天使の歌声」
平成20年度	講演会「眠りは生命の源」
平成21年度	講演会「出会いに感謝」
平成22年度	音楽演奏、お笑い鑑賞
平成23年度	音楽演奏、ボイストレーニング
平成24年度	語音(かたりね)「伝える・伝わる」

八幡西支部では昭和四十九年の支部発足以来、継続して職員研修を実施しており、その歴史は四十年近くになります。当初は、五十名ほどの参加で一泊研修を実施していました。体操の青山優子先生や日本舞踊の英聖峰先生、風の丘美術館の大野勝彦氏など、その道を極めた方々から専門のお話を伺って、保育の資質

向上を図ったり、一人の人間としての生き方を学ぼうという趣旨で実施していました。土曜日の夕方からの研修でしたので、遠出は出来ませんでした。直方や山口、福津など近場でもワークショップの素晴らしい所ばかりを研修会場にしました。その後、全会員が参加できる研修として発展してきました。



現在は、講演会、音楽鑑賞など様々な分野の講師を招いて平日の夜に開催しています。

保育士会では、支部の職員研修と同様保育士の資質向上のため新規採用者や経験年数の浅い



保育士を対象に、保育現場ですぐに取り入れられる遊びを中心に研修を行っています。『音楽』『体育あそび』『手作り玩具』等の実技は、数十年経った今でも続けられています。西区三十五園、全園の参加でほとんど欠席のない状況です。

『音楽』は音楽の基礎・指導法として、楽器の取り扱い、歌唱指導、合奏の取り組みなど丁寧な指導を頂き、初めて触れた楽器に感動する先生もいます。

『体育遊び』は運動用具の正しい使い方から身体表現、親子の運動遊

びなど体を動かすことの心地よさを乳幼児から身に付けて欲しいと願っています。青山先生のご講義で最近子どもの体力の低下等が問題になっているとのことから「子どもの健康」について学びました。

『手作り玩具』では、抱き人形や的当て、竹ざるのガラガラなど身近な素材で子どもが喜んで遊べる玩具を作ったり、作った玩具を使ってわらべうた遊びをしたりなど講師の岸上先生の楽しいご指導に受講者の喜びの感想が寄せられています。今後も子どもにとっても豊かな遊び環境が提供できるよう研修を行っていききたいと思えます。



八幡西支部全三十五園が交流し、学び合う研修の中で、公立、私立の先生方と仲良く一致協力して子どもたちのために日々研鑽していきたいと思っています。



雑

感

『幸せに感謝』

朝、「おはようございます。」と部屋の扉を開けると「先生おはよう」と、笑顔で掛け寄って来てくれる一才児クラスの子どもたちに「○○ちゃんおはよう。」と抱きしめながら、たくさんの幸せとパワーを貰えることに、感謝しながら、私の一日が始まります。

お部屋の棚には、大好きな絵本が並んでいます。以前はだるまさんシリーズが人気でしたが、今はワニワニブームから簡単なものがたり絵本へと、成長と共に興味も変わってきつてあります。「絵本見る」「まだ見る」と毎日たくさんのリクエストがあります。四月は一語文で動物や果物の名前を言いながら絵本を見ていましたが、今では「おつきさまこんばんは」等は絵本のページをめくる度何人かのお友だちは、声をそろえて読んでくれるほどになりました。成長していく姿を保護者の方と一緒に喜び合い共育ちしていく日々です。

また、自然に恵まれた環境にあるので、春は、貫山に見守られ緑の風の中、園庭あそび、夏は、2Fのベランダから曾根干潟や間島をながめながら水あそび、秋はコスモスの揺れる道を歩いてどんぐり拾い、冬は、安部山から吹いてくる北風小僧の寒太郎ごっこ、他には、だんご虫やカエルと一緒に表現あそび等四季折々の自然に触れて、一年を過ごしています。自然の中では、私も子どもたちと同じ感性で共感しな

がらあそべる楽しさを味わうことができず。昔から受け継がれている良い保育や体験は、やはり変える事なく続けています。園の方針として、後輩の先生方には知らない事や分からない事のないよう、とても丁寧知らせてくれます。保育に関しても秘訣等、惜しみなく伝授して下さいます。それを受け止める力がどれだけあるかによって、ひとり一人、保育士としての個性や力量が育っているように思います。情熱的な先生や穏やかな先生等、それぞれの良さを持った先生方、私が保育士として幼い頃からの夢が叶った頃からずっと憧れていた先生、そして相手を思いやる気持ちの大切さ、何事にも諦めないで最後まで頑張る心を持つ事等、言葉だけでなく背中を見て学ばせて頂けている園長先生、素敵な先生方のいる園で、幸せな保育士生活を送れている事に感謝の気持ちで、いっぱいです。相田みつをさんの本の中に、私の好きな「一生勉強、一生青春」という言葉があります。この言葉を支えにこれからもイキイキと輝けるよう頑張っていきたいと思えます。

来年は、芝生いっぱい敷き詰められた、緑の絨毯のような園庭で、子どもたちの笑顔に囲まれ、どんな新しいあそびに挑戦しようかな、と今から胸がワクワクして楽しみです。

大浜保育園 花田 久美

編集後記 —嫌いな人

あなたは嫌いな人がいますか？ もしあればその人のどこが嫌いかを考えてみてください。そして次に、あなた自身その嫌いなところを持っていないか、顧みてください。たとえば「あの人は自分を主張しすぎる」と答えたあなたは、過去に「自分を主張しすぎて」人を怒らせたことがありますか？ 「あの人は自慢ばかりする」と答えたあなたは、過去に「自慢」したことがありますか？ そしてそんなあなたは「主張しすぎ」や「自慢」してしまう自分が嫌になったことはありませんか？

もしかするとあなたの嫌いな人は、あなた自身を映し出す「鏡」かもしれませんね。自分の嫌いな部分を、相手に見せられてしまう、そういうことから、相手を嫌いになっているのかもしれないよ。もしそう思ったなら、互いに少しだけ相手を許せるようになるかもしれませんね。

「保育北九州」編集長 日野真人